６．事業内容	ピープルズ・ホープ・ジャパンでは、タイで増加傾向にある子宮頸がん・乳がんの早期発見・適切治療を推進するため、チェンマイ県サンパトン郡・ハンドン郡の 30 歳から 60 歳の女性 39,753 名を対象に、1）子宮頸がん検診受診率 50%以上、2)乳がん自己触診率 70%以上、3)検診の結果異常が見つかった場合の精密検査と適切な治療 100%を目標とし、活動を実施いたします。以下、第三年度の事業内容を記載いたします。 ・地域のリーダーへ当事業の説明会 第三年度の活動地で中核的役割を担う県保健局職員、郡保健局職員、郡病院・町病院看護師計 40 名を対象に事業の説明会を実施。 ・事業オープニングセレモニー 政府関係者、郡病院・町病院看護師、村のヘルスボランティアや当事業に興味を持つ一般の人々計 200 名を招き、事業のオープニングと今後の成功を祈願する式典を実施。（チェンマイ総領事館職員にもご出席頂く予定。） ・教育教材の作成 対象年齢の女性に検診参加を促すパンフレット 31,800 部、検診を受診した女性への検診記録張 9,938 部、検診キャンペーン時に看護師らが女性への説明に利用するポスターとポスター立て 264 セットを作成し配布する。 ・医療機材の整備 検診に必要な 7 種類の医療機材を、2 郡病院・31 町病院・国立がん病院（ナコンピン病院）に整備する。 ・看護師の研修 2 郡病院・31 町病院から 2 名ずつ計 66 名の看護師を対象に、正しい知識と技術を持って検診を行えるよう、2 日間の研修を実施。1 日目は 2 郡合同での講義、2 日目は郡毎での実地訓練を行う。 ・村のヘルスボランティアの研修 2 郡 229 村から各 4 名ずつ計 916 名の村のヘルスボランティアを対象に、正しい知識を身につけ女性住民に検診受診を促せるよう、1 日の研修を実施。（研修を受けた後は、自ら各家庭を訪問したり村の集会の場を利用し、

	女性住民に検診キャンペーンへの参加を促す。） ・子宮頸がん・乳がん検診キャンペーン 2郡病院・31町病院の管轄区で各3回ずつ計99回の検診キャンペーンを実施。（移動検診車を活用しての工場など病院外での検診も含む。）看護師が中心となり、がんについての保健教育を行い、同意を得た者に検診を行う。ターゲット年齢の女性39,753名の50%となる19,877名以上が子宮頸がん検診を受診し、70%となる27,828名以上が乳がん自己触診法を習得することを目指す。 ・「がん予防と食事」に関するワークショップ 2郡から44名のヘルスボランティアまたは看護師を対象に、がんを予防するための食事方法（オーガニックフードや野菜中心の食事等）について、調理実習を交えてのワークショップを開催。参加者には、ここで学んだ知識を女性住民に伝えていく役割が期待される。 ・選ばれた村のヘルスボランティアの特別研修 2郡から44名のヘルスボランティアを選抜し、がんについての深い知識を身につけるための特別研修を実施。通常のヘルスボランティアをまとめる役目を担う他、検診キャンペーン時の検診器具の準備など、看護師のサポートとしての役割が期待される。 ・モニタリングのための病院訪問 事業が円滑に行われているかをモニタリングするため、郡病院・町病院や、国立がん病院（ナコンピン病院）の医師や看護師らとの会議を行う。また、彼らと共に、異常が見つかった患者のその後の精密検査や治療状況についてフォローアップする。 ・中間会議 事業の中間時期に、2郡病院・31町病院の看護師計66名を対象に中間会議を実施。進捗状況の把握と、成功事例や課題点の共有を行う。 ・年次会議 事業の終了時期に、同じく2郡病院・31町病院の看護師計66名を対象に年次会議を実施。1年間の成果を共有する。 ・評価活動 看護師、村のヘルスボランティア、選ばれた村のヘルスボランティア、検診キャンペーンに参加した女性の計44名を対象に、事業を評価するためにフォーカスグループインタビューを実施する。

<table>
<tr>
<td>７．これまでの成果、課題・問題点、対応策など</td>
<td>①これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果）

<table>
<tr><th></th><th>第一期
サラピー郡・
サンカンペーン郡</th><th>第二期（10ヶ月間）
サンサイ郡・
ドーイサケット郡</th></tr>
<tr><td>研修を受けた看護師の数</td><td>36名</td><td>62名</td></tr>
<tr><td>研修を受けた村の
ヘルスボランティアの数</td><td>829名</td><td>951名</td></tr>
<tr><td>子宮頸がん・乳がん検診
キャンペーンの数</td><td>100回
（うち22回は病院による
自主開催）</td><td>113回
（うち24回は病院による自主開催）</td></tr>
<tr><td>子宮頸がん検診を受診した
女性数</td><td>20,869名
（対象女性の50.7%）</td><td>18,848名
（対象女性の42.6%）</td></tr>
<tr><td>子宮頸がん検診結果が異常で
病院に照会された女性数</td><td>132名
（うちステージⅠが1名、
ステージⅣが1名）</td><td>24名</td></tr>
<tr><td>乳がん自己触診法を学んだ
女性数</td><td>31,412名
（対象女性の76.3%）</td><td>28,075名
（対象女性の63.5%）</td></tr>
<tr><td>乳がん触診結果が異常で
病院に照会された女性数</td><td>61名
（うちステージⅠが
3名）</td><td>33名</td></tr>
</table>

②これまでの事業を通じての課題・問題点
子宮頸がん検診の精度の低さ（子宮頸がん検診受診者の中で、異常が見つかる人の割合が国際水準と比較して低いと思われる。）

③上記②に対する今後の対応策
途上国で子宮頸がん細胞診だけに頼るのは、精度の面から限界があるかもしれず、今後新しい検診方法を探っていく。2013年1月には日本の子宮頸がん分野の第一人者である医師を事業地に派遣し、精度の低さの原因を突き止め、必要があれば新しい検診方法の導入についても検証する（医師の派遣費等は当団体の自己資金を充てる）。</td>
</tr>
</table>